

## 名古屋アイリスロータリークラブ

RID2760 THE ROTARY CLUB OB NAGOYA IRIS  
人類に奉仕するロータリー ROTARY SERVING HUMANITY  
2016-17 年度 国際ロータリー会長 ジョンF. ジャーム

例会日:毎週水曜日 13:00~14:00

例会場:ANA クラウンプラザ グランコートホテル名古屋

創立:2013 年 6 月 5 日

会 長:櫻井 孝充 「信頼に基く寛容と選択」



■ 斉唱 君が代 奉仕の理想

■ 司会 加藤 正広 会員

■ 出席者報告 出席者数 27 名 / 会員数 37 名  
出席率 72.97%

前々回(第 180 回)修正出席率は 78.37% (29/37)

■ ゲスト

特別代表 浦野 三男 様

■ ニコボックス報告

浦野 三男 特別代表

本日、お世話になります。櫻井会長プレゼントありがとうございます。

櫻井 孝充 会長

ようこそ張さん、これから 1 年よろしくお願ひします。本日は浦野特別代表、お越し下さりはありがとうございます。

菊池富士子 幹事

本日は米山奨学生の張宵宇さんが初めての参加です。1 年間よろしくお願ひします。

荒山久美 会員

次年度理事会が初めて開催されました。5 年目に入るアイリスです。皆様の更なる協力をお願ひし、藤谷次年度会長を支えましょう。

長谷川芳子 会員

本日は、社会奉仕委員会の卓話です。どうぞよろしくお願ひします。

ニコボックス合計 6,000 円

■ 櫻井会長挨拶

こんにちはアイリスロータリアンのみなさん。  
これから語る事は、独り言です。小生の。  
今宵が楽しみなんです。35 年ぶりなんですよ。  
小生が中学の頃、スーパースターであり憧れの神様と呼ばれたミュージシャンと、ジャズミュージック界のスーパースター、W スーパースターの夢の競演が名古屋のライブハウスであります。好きであるがために無我夢中なこの気持ちが今宵に叶うかと思うと、ひとしおどころか、ふたしお、の思いです。

興味が無い御方から見れば、馬鹿じゃないーと、罵られそうですが・・・。「さて、今だ小生は過去の生業を含め現実として RC. には馴染めません。私が居てはいけない場所なのだ。お可笑しいなー? 何故ここに?



傍から見たら、ピッタリ、もうロータリーが「身に

ついてる」と、思われる方は少ないかと思えますし。そうなんです。何故でしょうか？74の瞳が見てる。

身の程知らず。RC. というクラブに馴染めないからでしょうか？

私以外の方はロータリアンだ。私はエイリアンで、ホリナーなのだ。」

はっと、夢から覚めました。最近はこのロータリーの夢を見ました。

正夢のような。スーパースターロータリアン達は、私みたいなこんな

夢を見られたことは無いのでしょうか？

NIRC も、もうじき創立5年目に成ります。

まだまだ、形が見えてきたところまでには至らないかもわかりませんが、

小生5年目にしてこの夢にまで出てくるRCとは。

地に足がかすかに着き始めたのでしょうか？

それゆえ夢に見るのでしょうか？

さて、アスパラが美味しい季節となりました。

好き嫌いがあるかと思えますこの野菜。嫌いな人には残念ですが。

でも、アスパラは貴方の事、嫌ってはいませんよ。

さてさて、今日は我が社会奉仕委員会の名古屋大学での小児がん病棟への奉仕、社会奉仕委員会皆さんから卓話としてお時間を計画しました。

現場に行かれたロータリアンの方は身をもって若い小児がんの現状を経験されたと思います。アスパラ嫌いな方、お好きな方も、社会奉仕委員会の委員の皆さん、よろしく感動の発表をお願いします。

この後、35年ぶりに、心の友であり、音楽好きの名古屋アイリスロータリアンの友と、35年ぶりに行って来ます。感謝。

■米山奨学生 張宵宇様 あいさつ

米山奨学生、張宵宇です。これから1年間よろしくをお願いします。



■本日の卓話

社会奉仕委員会 長谷川芳子委員長

本日は、予定されていた卓話の方が延期になったという事で、社会奉仕委員会がピンチヒッターで卓話をする事になりました。どうぞよろしくお願い致します。

3月28日に、名大小児科病棟で行われましたイベントについてご報告をかねて卓話させていただきます。





これが会場の風景です。会場には子供たちだけではなく、ご家族の方々もたくさんご参加いただきました。全体の司会進行は生田さんをお願いをしました。お話しを進めるにあたって、まずは、このイベントの準備段階でのことも交えながらお話しを進めていきます。

イベントのタイトルは、「髭男爵とお侍ちゃんのお笑いお花見会」としたんですが、準備段階では、お笑いの方々を呼ぶことまでは決まっておりましたが、会場が会議室ということで、少し殺風景ですので、子供たちに華やかなイベントを印象づける事ができたらいいなと考えました。3月の終わりといこともあり、病院のすぐ隣にある鶴舞公園でもお花見会シーズンの真っ盛りということもあり、予算内の範囲でできるお花見会を兼ねることとし、このタイトルに決定しました。

外に出てお花見ができない子供たちの為に、本物の桜の枝を用意しようと思いましたが、感染症を考慮すると、生花は持ち込みできないとのことだったため、身長より大きな造花の桜の木を準備しました。また、風船などの飾り付けや、プレゼントのラッピングもピンクを基本として、明るく可愛らしい会場造りに心がけました。

芸人さんとの交渉は沖さん、新聞社とのやりとりは伊藤善子さん、提出書類の作成は鬼頭さん、また、ビンゴの景品の購入、参加賞の景品130名分のラッピングや会場の飾り付けの用意は長谷川が担当し、準備を進めました。

イベント当日の運営を円滑に進めるため、ご参加頂く会員の方には、イベントにおける役割を決めて、当日に望んだのですが、

名大側から事前に、イベントの部屋に入れるアイリスロータリーの人数に制限がありました。これは4人だったんですが、結果としては、全員イベント会場にはいることができたのでよかったのですが、もしかしたら、会場には入れないとしりつつも、参加して下さったみなさま、本当に心がひろく感謝しています。

参加頂いた会員の皆様には、会議室の机と椅子を全部廊下にだしていただきました。たくさんのテーブルといすを運んで、文字通り、ロータリアンが汗を流した場面だったとおもいます。また、造花の桜の花の飾り付けや風船にガスをいれて浮かべ、イベント会場をかざるなど、裏方として身体を動かして頂きました。

会場の準備が整ったら、こともたちの入場です。名大病院の石黒病院長、ミッキーマウスのネクタイをつけたアイリスロータリー櫻井会長の挨拶があり、いよいよ芸人さんの登場です！

それでは、まずは、お侍ちゃんからです。

この髪型は自前だそうです。本当にちょんまげを結っています。

腰に刀を2本さしているのですが、子供たちはこの刀に興味を示しネタ披露がおわってからの質問コーナーでは、刀が本物なのか？

刀をみせてほしいとか、お侍ちゃんは何歳なの？などのやりとりがあり、大変盛り上がりしました。ここで、印象に残った出来事をお話します。

お侍ちゃんが、ぼくの髪は自前で、てっぺんの毛はないんだよ

と、子供たちに説明をしました。そうしましたら、会場にいた子供の一人が、「ぼくも毛がないよ。いっ



しよだね！」と喋っていた帽子をぱっととりました。本当にかみのけがありませんでした。会場は笑いに包まれましたが、複雑な心境でした。そこにいた大人のみなさんは、心のなかで涙をこらえた瞬間でもあったと思います。自分の髪の毛がぬけてしまったことを笑いかえれるこどもの素直な気持ちに感動しました。

次に、髭男爵のネタ披露へと続きます。

～ルネッサンス～と喋って赤ワインを乾杯するので有名なお笑い芸人さんです。一世を風靡したのが10年くらい前なので、子供たちが自分たちのことを知らないのではないかと大変心配して、「僕たちのこと知っているひと」と確認しながらのネタ披露となりました。

もろん結果は知らない子供たちが多かったんですが、そこはやさしいこどもたちです。

ルネッサンス～と全員で元気よく乾杯してくれました。

しかし、子供たちのご家族からは、「わー、あの髭男爵だ一本物にあえるなんてうれしい！おもしろい！」と、大変喜ばれました。

ネタ披露が終わって、会場に来てくれた子供たちとご家族と記念撮影の写真です。みんな笑顔です。当初、慰問は初めてということで芸人さんたちも、子供たちに笑ってもらえるかどうか大変心配されていましたが、ネタ披露がおわり、たいへん盛り上がったこともあり、ほっとされた表情です。司会の生田さんのリードが素晴らしく、子供たちにやさしく明るくはなしかけてくださり、だんだんと打ち解けて、沢山の笑顔に満ちた暖かな会場のムードが生まれたんだと思います。

写真でもわかる通り、点滴をつけた子、車いすのこどももたくさんいますが、この子供たちは、看護婦さんに車いすをひかれ、見守られながら会場まで来てくれました。

5階の小児科病棟から8階の会議室まで、ほんの少

しの移動のように思っていたのですが、病気のこどもたちにとっては大変なことなんだなあ実感しました。

そして、このあと、髭男爵とお侍ちゃんには、治療や体調の関係で会場にこられなかった子どもたちの病室への慰問に行ってくださいました。準備していたプレゼントを渡してもらったり、一緒に写真を撮ってくれました。

その後、名大病院のこどもたちや、そのご家族からお手紙をいただきました。こころ暖まる、かわいい感想やメッセージです。ご覧下さい。



何通かご紹介いたします。

中日新聞にも掲載していただきました。これは、伊藤善子さんのお陰です。

多くの方のご協力のお陰で、社会奉仕委員長会でのようなイベントを無事終えることができたことを感謝します。委員会のだれがかけても成し遂げることができなかつたことだと思っています。

ひとりひとりが自分の役割をしっかりと果たし、社会奉仕委員会がチームとして機能し、参加して下さった会員の皆さまと共に、ひとつのものをつくりあげる一体感に包まれた瞬間だったと思います。

看護婦さんや患者支援係の方からも、予想をこえたイベントでしたと感激していただく事ができました。会場がたくさんの笑顔に包まれ、ひとときではあり

ますが病を忘れ、病気に立ち向かえる元気へのささやかな助けとなった事を期待します。

最後になりますが、これからを生きる子供たちがかかってしまった小児がんは、必ず完治をめざし、治療します。なぜなら、がんと共存しながら、がんのまま大人にはれないからです。

完治を目指し、何年もの間つらい治療に取り組む子どもやそのご家族の苦労ははかりしれないものがあると思います。今回のイベントは、これまでの品物を届ける寄付とは違い、しっかりとした思いやロータリアンの汗を贈り届けることができたのではないかと思います。

これからも、名大病院小児科病棟への支援を軸に、小児がん基金への寄付というかたちで支援を続けていけたらと願っています。

以上